

# 地域公共バス「池 07 系統」運行支援事業について

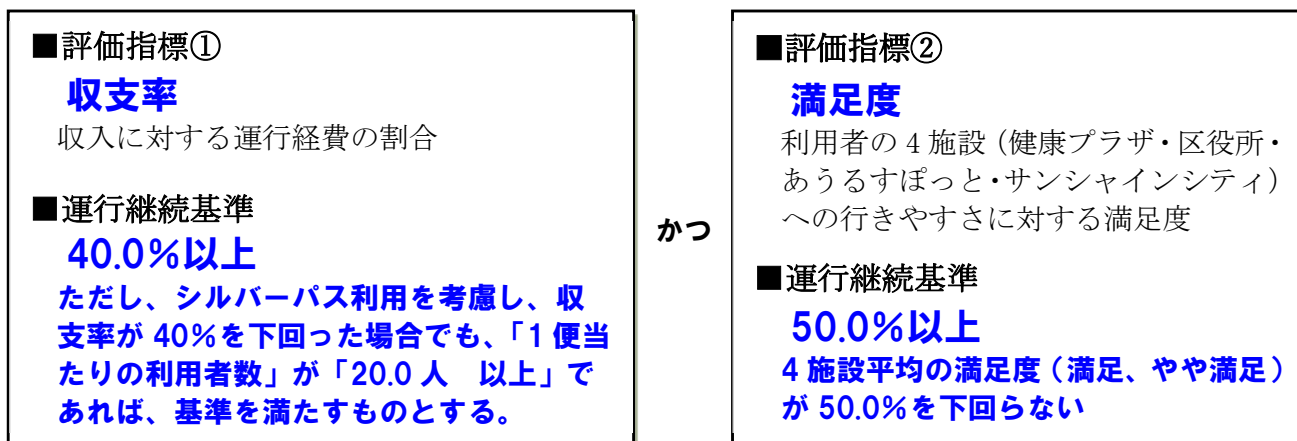
## 1. 事業概要

平成 23 年 3 月から江古田二又と池袋駅西口間を結ぶ「池 07 系統」を、区民の利便性の向上のため、池袋駅東口のサンシャインシティ方面まで延伸し、区は、社会実験として運行支援事業を開始した。社会実験では、乗車状況や利用者の意識調査から事業評価を行い、平成 28 年度に公共交通会議による運行継続の承認を受け、現在、区の地域公共バス運行支援事業補助金交付要綱に基づき継続運行している。

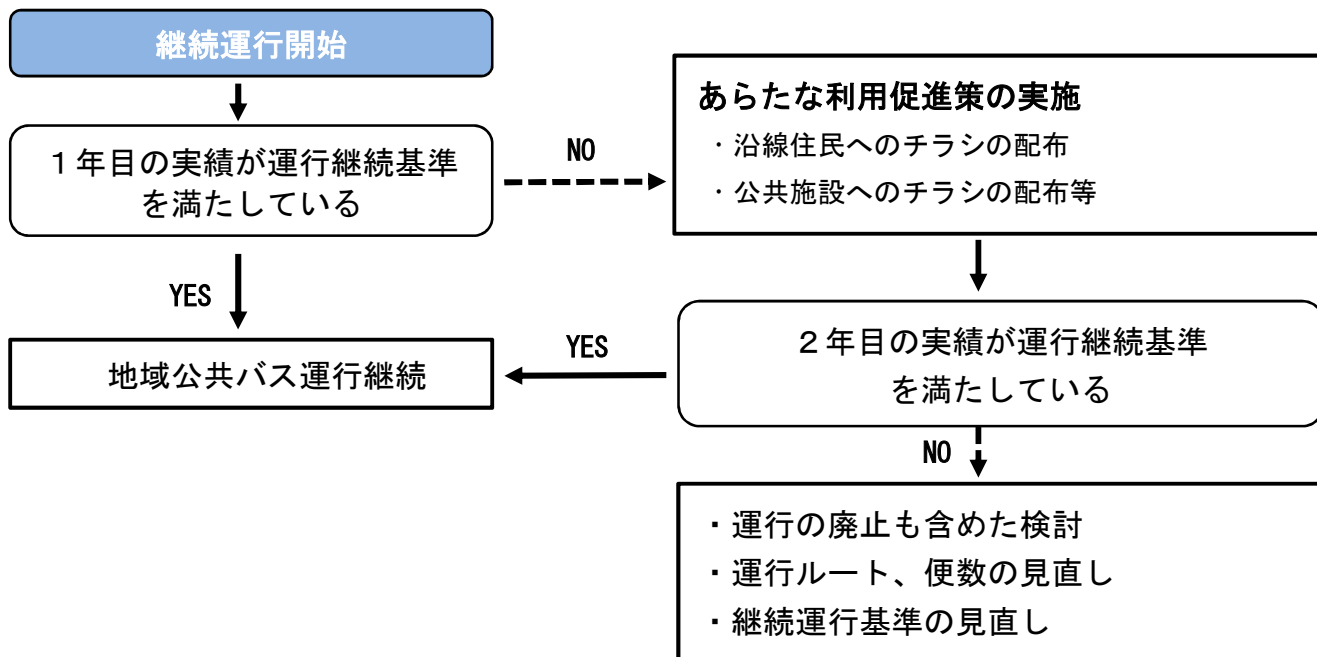
## 2. 運行評価について

本系統の継続運行については、平成 28 年度に開催した本会議において、過度な財政負担を避けるため、評価検証のモニタリングを引続き行い、2 年連続して運行継続基準を満たしていない場合、運行継続フローのとおり廃止を含めた検討を行うとしている。

### (1) 運行継続基準



### (2) 運行継続フロー



### 3. 令和4年度評価について

調査実施期間 全便調査：令和4年12月6日（火）から12月12日（月）

満足度調査：令和4年12月11日（日）、12月12日（月）

#### (1) 評価指標①【収支率】：39.9%（収支率については前年度決算額）

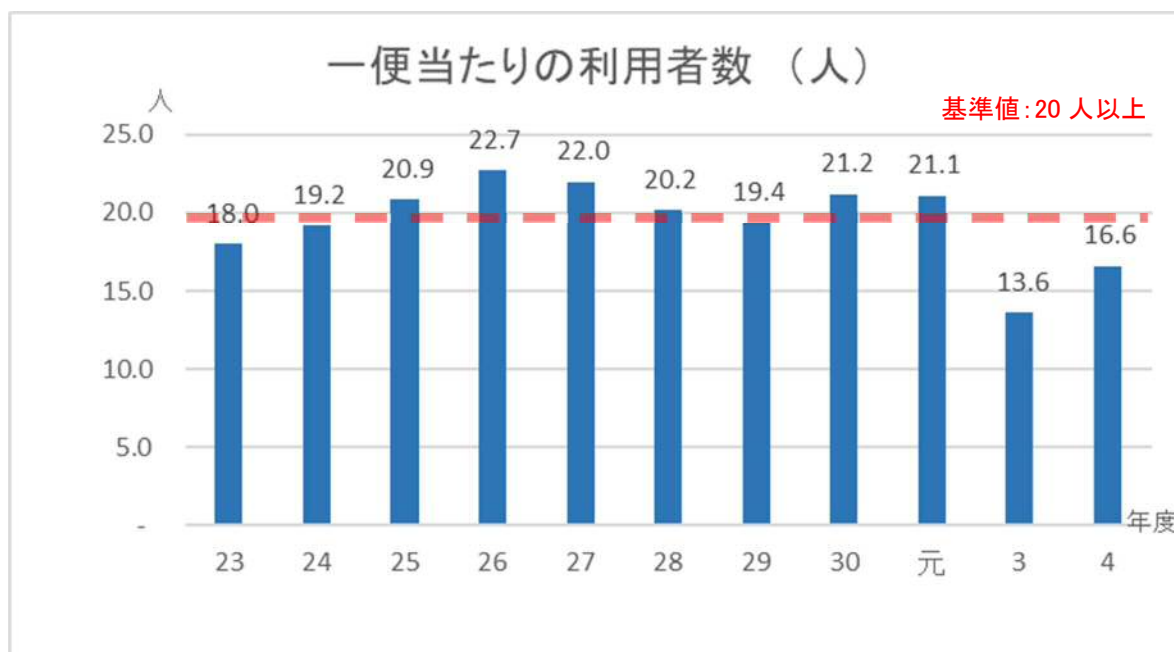
収支率の推移（平成23年度～令和3年度）

（単位：千円）

年度	収入 ① ・現金 ・ICカード ・シルバーパス 等	支出 ② 運行経費 その他支出 (工事費等) を除く	その他支出 ③ ・工事費 ・車両償却費 ・ラッピング 費用等	収支率(%) 収入/支出② =①/②	区補助金 (②+③) -①	年間乗車人数(人) ※一週間全便 調査による推 計値	利用者一人当 りの区補助額 (円/人) 区補助金/年間 乗車利用人数
23	11,013	27,138	7,741	40.6	23,866	104,780	228
24	10,868	26,877	11,274	40.4	27,283	111,592	244
25	11,455	27,164	5,395	42.2	21,104	121,472	174
26	11,768	27,637	6,634	42.6	22,503	132,028	170
27	12,505	31,123	14,689	40.2	33,307	128,128	260
28	11,111	27,061	648	41.1	16,597	117,520	141
29	11,363	27,306	644	41.6	16,587	113,048	147
30	11,777	27,768	1,154	42.4	17,145	123,396	139
元	11,982	29,427	1,966	40.7	19,410	122,680	158
2	10,557	27,998	3,575	37.7	21,016	調査未実施	不明
3	11,296	28,337	2,366	39.9	19,407	79,465	244
4						97,194	

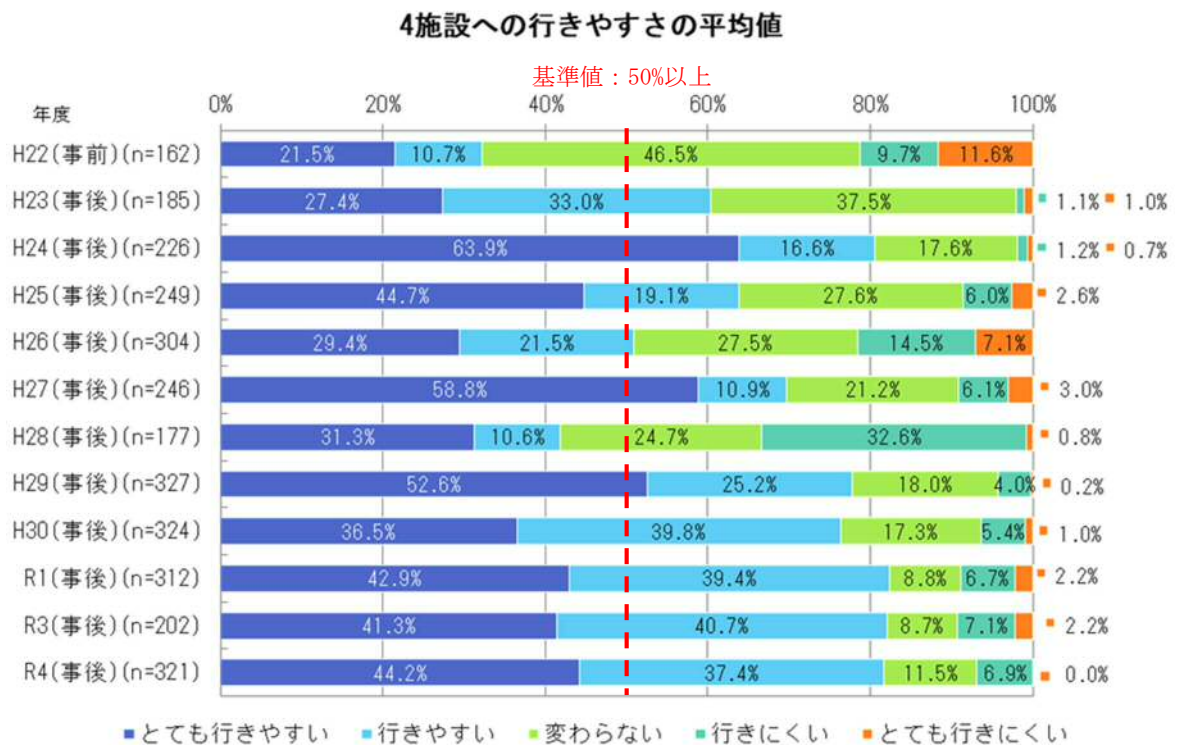
#### (2) 評価指標①【1便当たりの利用者数】：16.6人

利用者の推移（平成23年度～令和4年度）



(3) 評価指標②【満足度】: **81.6%** (「とても行きやすい」「行きやすい」の計)

東池袋方面の公共施設や商業観光施設 (健康プラザ・豊島区役所・あうるすぽっと・サンシャインシティ) への行きやすさに対する利用者の満足度



4. 結論

	評価指標①		評価指標②
	収支率	1 便当たりの利用者数 (収支率 40%未満)	満足度
運行継続基準	40.0%以上	20 人以上	50.0%以上
令和 3 年度評価	37.7% (R2 年度収支)	13.6 人	82.0%
令和 4 年度評価	39.9% (R3 年度収支)	16.6 人	81.6%

まず、昨年度 (令和 3 年度) 評価では、評価指標①収支率について、運行継続基準を下回ったが、単年度であったため継続とし、運行継続フローに基づき新たな利用促進策として「池 07 系統」の沿道にある 21 の区有施設にチラシ (その他資料参照) を配布するなど対策を講じた。

本年度 (令和 4 年度) 評価では、評価指標①収支率について、2 年連続運行継続基準を下回り、かつ、1 便当たりの利用者数も基準を下回ったため、継続の可否を検証等が必要となる。

一方、収支率低下の主な要因は新型コロナウイルス感染症の影響と考えられ、また、収支率も 39.9%と、昨年度評価の収支率より 2.2 ポイント増加し、限りなく継続基準の 40%以上に近いこと、更に、評価指標②満足度では約 8 割超から指示を得ており、高齢者等の利用も多く、区の東西を結ぶ重要な公共交通であることから、事業を継続したい。

また、今回の結果については、コロナ禍における一時的な影響に加え、移動手段の変化など新しい生活様式 (ニューノーマル) による影響も考えられることから、引続き状況を観察し、次年度以降の方策を検討することとする。加えて、チラシ配布等の利用促進策も継続する。